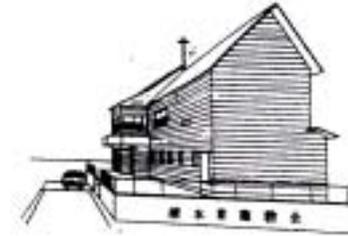


《今朝の聖書から》

“小事に忠実な人は、大事にも忠実である。そして、小事に不忠実な人は大事にも不忠実である。(16:13)”は聖書の暗唱聖句の代表の一つになっているくらい有名です。別にキリスト信仰を持っていない人でも、世の中の倫理として、この一節は大切な規範であり、“人の道”だと理解出来るでしょう。そうすると、イエス様のこの節に至るまでに話された物語の意味が何処かに行ってしまう。今朝の聖書を読み進めましょう。“告げ口をする者があった”と1節から始っていますが、私たちも、告げ口の中にいるって思うこと、ないでしょうか。そして常かもしれませんが、“それは嘘だ”と一生懸命に言えばいほど“やっぱり本当なんだ”っていわれるときもありそうです。そこで、この神様に忠実な家令は、働きを開始します。まず彼は、主人が不正の富を得ようとしていることを律法に求めました。“兄弟に利息を取って貸してはならない。金銭の利息、食物の利息などすべて貸して利息のつく物の利息を取ってはならない(申命記23:19)”とあることを知っていましたし、レビ記には、“あなたがたが生きながらえるためである”と目的も記されています(レビ25:36)。9節に注目して見ましょう。“またあなたがたに言うが、不正の富を用いても、自分のために友だちをつくるがよい。そうすれば、富が無くなった場合、あなたがたを永遠のすまいに迎えてくれるであろう。”という御言葉です。世の多くの人々は、不正とされている金を、更に不正のために用いることには実に忠実なのです。不正の財ですから、私たちが、年取った時や、孤独になったときには、無くなってしまい、力にはならないのです。しかし忠実に、神様のために用いられたお金は、この人を支えるのに十分に役立つのです。“この不正な家令の利口なやり方をほめた。この世の子らはその時代に対しては、光の子らよりも利口である”と8節にあります。この世の子らとは誰でしょう。“この世にあって、この世を生き、主に仕える人々”のことで、光の子らとは誰でしょう。ひにくタツプリの言い方ですが、律法主義者のことでしょうか。この金貸しは、ユダヤ人であり、律法を信じていましたが、律法違反を行なっていたという矛盾に陥っていたというわけです。15章で3つの喩え話を通して、神様の愛を示されたイエス様は、この箇所、主を中心とし、主にあるよき友を作るように力を尽くしなさいと、今度は、私たちの行なうべきことを示しておられるのです。

週報

2007年 9月 23日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸